

シニアコラムの執筆を依頼されて、妙に「シニア」というキーワードが気になった。「シニア」という語は、世間一般には年齢の高い人々のことを指しているようである。このコラムでの「シニア」は年齢の高い人というよりはベテランといった意味合いが強くと勝手に思っているのであるが、Webで調べてみると、おおむね60歳ぐらいからというのが一般的のようである。自分自身はあまり「シニア」という感覚は持っていなかったのであるが、この定義からすると、間違いなく「シニア」の部類である。

さて、「シニア世代」に突入した筆者としては、「シニア生活」とICTのかかわりを少し考えてみたい。「シニア世代」はICTにかかわらず新しい技術を敬遠する(あるいは使えない)というような定説がまかり通っているような気がする。特に、ICTは進歩が早く、新しいデバイスやサービスに追随していくのは容易ではないかもしれない。一方で、現役時代に仕事などでインターネットになじんでいた世代が「シニア世代」に入ってきているので、インターネットそのものの利用はかなり高くなってきている。ただ、「シニア世代」が若い頃には考えられなかったような事態が出現している点に注意しておく必要がある。典型的な問題はサイバーセキュリティの問題である<sup>1)</sup>。昔は愉快犯的なものであったものが、現在では明らかに、個人へ経済的な損失を与えるものが増えてきている。さらに厄介なのは、単に個人が被害を受けるだけでなく、周囲にも被害を及ぼす、つまり被害者が加害者になる危険性があるという点である。生半可な知識というのがきわめて怖い状況になっていて、特に、直接ICT分野にかかわっていなかったシニアの場合はなおさらである。交通ルールなどは、その体系が昔からそれほど劇的には変わっていないので、特に新しい知識や技能を習得しなくても大きな問題にはならないかもしれない。しかし、インターネットを中心とするICTに関しては、

その様相が劇的に変わってきているので、必要最低限の知識やスキルを習得しておかないと大きな問題を引き起こす可能性がある。平均寿命が長くなり、現役を退いてから時間の経った「シニア世代」の人口が増えるにつれ、その時々で必要な知識をどう習得してもらうかという点は、社会の大きな課題である。

最近、筆者の読書はもっぱら電子書籍を通してであるが、視力が悪くなってきたときに、フォントの大きさを自由に変えられる点は、従来の書籍にない大きなメリットであると痛感している。もちろん、物理的なスペースを必要としないという点もありがたい点ではある。また、スマートウォッチを活用し



[シニアコラム]

IT 好き放題



[No.73]

## シニア世代とICT

た運動量の経時的な計測も健康管理という点で役に立っている。ICTをベースにしたさまざまな新しい個人向けサービスが展開されてきており、これらを上手に利用することによってシニア世代のQoL (Quality of Life)が向上するのは間違いない。健康管理や省エネなどに活用すれば、QoLの向上に加えて、社会的な支出を削減できる可能性がある。社会との連携の場が減りがちなシニア世代へ、ICTの利活用に関する知識や技能をどうやって伝えるのか。さらには、ICTをベースにしたサービスを通して、シニア世代と社会の連携の場をどうやって増やしていくのか。組織の垣根を越えたICT専門家の大きな集団である本会が貢献できる大きなテーマである。

### 参考文献

- 1) サイバーセキュリティ インターネットの悪用による被害に遭わないために、政府広報オンライン、<http://www.gov-online.go.jp/useful/article/201603/1.html>

(2016年10月31日受付)

谷口倫一郎 Rin-ichiro TANIGUCHI

九州大学

[正会員] rin@kyudai.jp

1980年九州大学大学院修士修了。1996年九州大学大学院システム情報科学研究科(現研究院)教授。2011～13年度同研究院長。2014年度より九州大学情報基盤研究開発センター長。2010～11年度本会理事。

